

すくすくみどり

No.15 コンテナで育てるキッチンガーデン



この冊子は、緑と地球環境保護のため古紙100%の再生紙と大豆インキを使用しています。

編集・発行 財団法人札幌市公園緑化協会

〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目 南1条タカハタビル2階

電話 011-211-2579

<http://www.sapporo-park.or.jp/>

財団法人札幌市公園緑化協会



この小冊子の内容をもっと詳しくお知りになりたい方、または他の植物の育て方などについてお知りになりたい方は、「緑の相談」をご利用ください。専門の相談員があなたのご質問にお答えします。

植物の栽培はいろいろな方法があります。この冊子の内容につきましても、ひとつの目安としてご利用ください。

目次

- P2 ● はじめに
- P3 ● 第14回緑と花のフォトコンテスト
グランプリ作品
- P4~5 ● 第36回緑の絵コンクール
大賞作品
- P6~7 ● 私たちの暮らしと緑
- P8~9 ● 新鮮でおいしい緑を育てよう
キッチンガーデンのテーマは？
- P10~11 ● 畑（コンテナ）はどこ（何）にする？
- P12~13 ● コンテナを選ぶ目安
- P14~15 ● コンテナでの栽培管理
 - ・ 置き場所
 - ・ 肥料
 - ・ 水やり
 - ・ 病虫害防除
- P16 ● 寄せ植えと組み合わせの工夫
- P17 ● 主な野菜の播種・定植・収穫期
- P18~19 ● 大切な土の役割
 - ・ 土の組成と三相分布
 - ・ 土の中でも呼吸する
 - ・ よい土はこんなカンジ
- P20~21 ● コンテナ栽培に使う土
 - ・ 有機物を増やそう
 - ・ ミミズを増やそう
 - ・ 堆肥をつくろう
- P22~23 ● 緑の相談
- P24~25 ● グリーンデータバンク
- P26~28 ● 札幌市都市緑化基金



はじめに

植物は私たちの目を楽しませ、心身をリラックスさせてくれます。特に冬の長い北国では花や緑が貴重ですし、四季や室内・戸外を問わずに鮮やかな花と緑があるとそれだけでホッとしたり、華やかで豪華な雰囲気演出してくれたりします。

この冊子はこうした花と緑の中でも、私たちの身近にあって食材となるような植物にポイントをあてて解説しています。

もちろん書店でもこうしたテーマの本が多く出回っています。しかし、本州、特に関東地方を標準としたものでは、札幌と気候条件が大きく異なるため、解説されている栽培方法に無理があったり、時として全く逆のことが解説されていたりします。

四季だけをとりても、長く寒い冬、遅く短い春、梅雨のないさわやかな初夏、涼しく夜温の下がる夏、短い秋など、本州と札幌では気候が大きく異なります。

一見、寒い冬の問題などから、北国は園芸にとって不利であるかのように思われがちですが、寒暖の差が大きいので、果実などが甘くなったり、本州方面では栽培が難しい夏の暑さやムレに弱い植物でも、札幌では元気に育ったり、花や葉の発色が鮮やかであったりします。

この冊子では、北国札幌で植物を扱う上での特徴や優位性、楽しさなどを紹介し、花と緑にふれあう環境づくりに役立てていただくことを願って作成しています。

なお、この冊子作成に当たりましては、皆様からいただいた募金（札幌市都市緑化基金）の果実（利子）を使わせていただいております。

紙面で失礼ではございますが、ご協力をいただいた皆様への感謝とともに、さらなる札幌市都市緑化基金積立へのご協力をお願い申し上げます。



第14回（平成14年度）緑と花のフォトコンテスト
グランプリ作品

「茜に染まるモエレ沼」
袴田 浩明さん（札幌市在住）

第14回緑と花のフォトコンテストには、四ツ切部門に63名140点、サービスサイズ部門に40名146点、計103名286点の力作が寄せられました。

第15回緑と花のフォトコンテストも、札幌市内の公園や緑地での花や緑、自然とのふれあいなどをテーマとして皆様からのステキな作品、ほのぼのとした楽しい作品を募集しています。

（メ切平成15年8月末日）

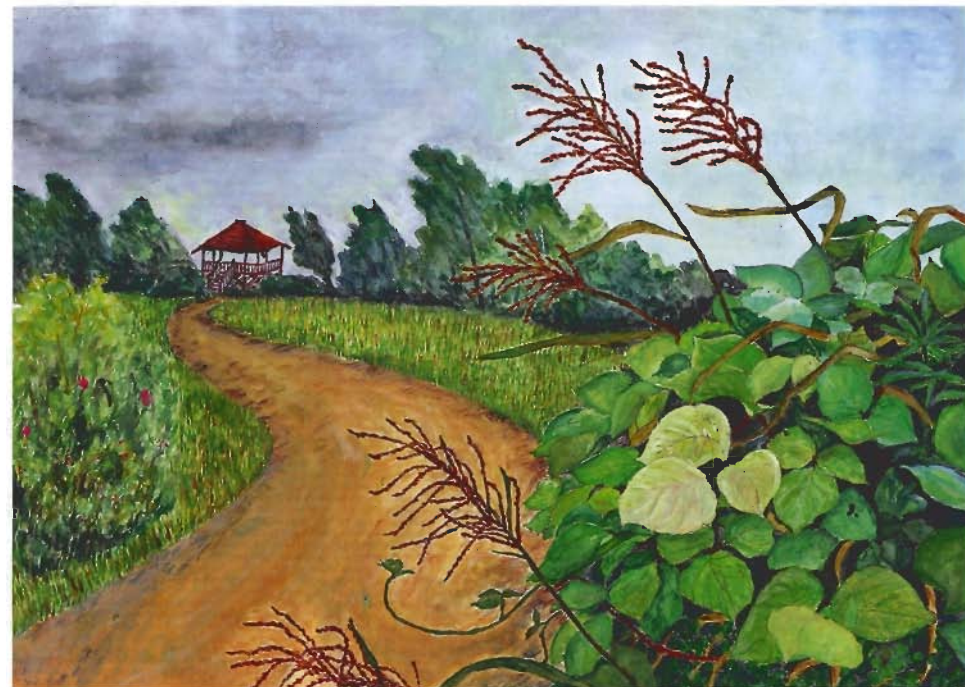


第36回（平成14年度）緑の絵コンクール

大賞作品

藤田 紗庸子さん（札幌市立大谷地東小学校 5年生）

緑の絵コンクールは、毎年、札幌市内の小中学生を対象として札幌市環境局緑化推進部と財団法人札幌市公園緑化協会の共催で実施しています。



第36回（平成14年度）緑の絵コンクール

大賞作品

池田 俊明さん（札幌市立琴似中学校 2年生）

第36回緑の絵コンクールは小学校から24校758点、中学校から16校453点、計1,211点の応募があり、小学生の中から藤田紗庸子さん、中学生の中から池田俊明さんの作品を大賞作品として選考しました。

私たちの暮らしと緑

緑は私たちが生きていく上で欠かすことのできない大切なものです。

緑は命の源である水を蓄えたり、空気をきれいにしたり、気温の上昇をやわらげたりするなど、私たちの心を和ませ、街にうるおいを与えてくれるなど、ハード・ソフト両面からの恩恵ははかりしれません。

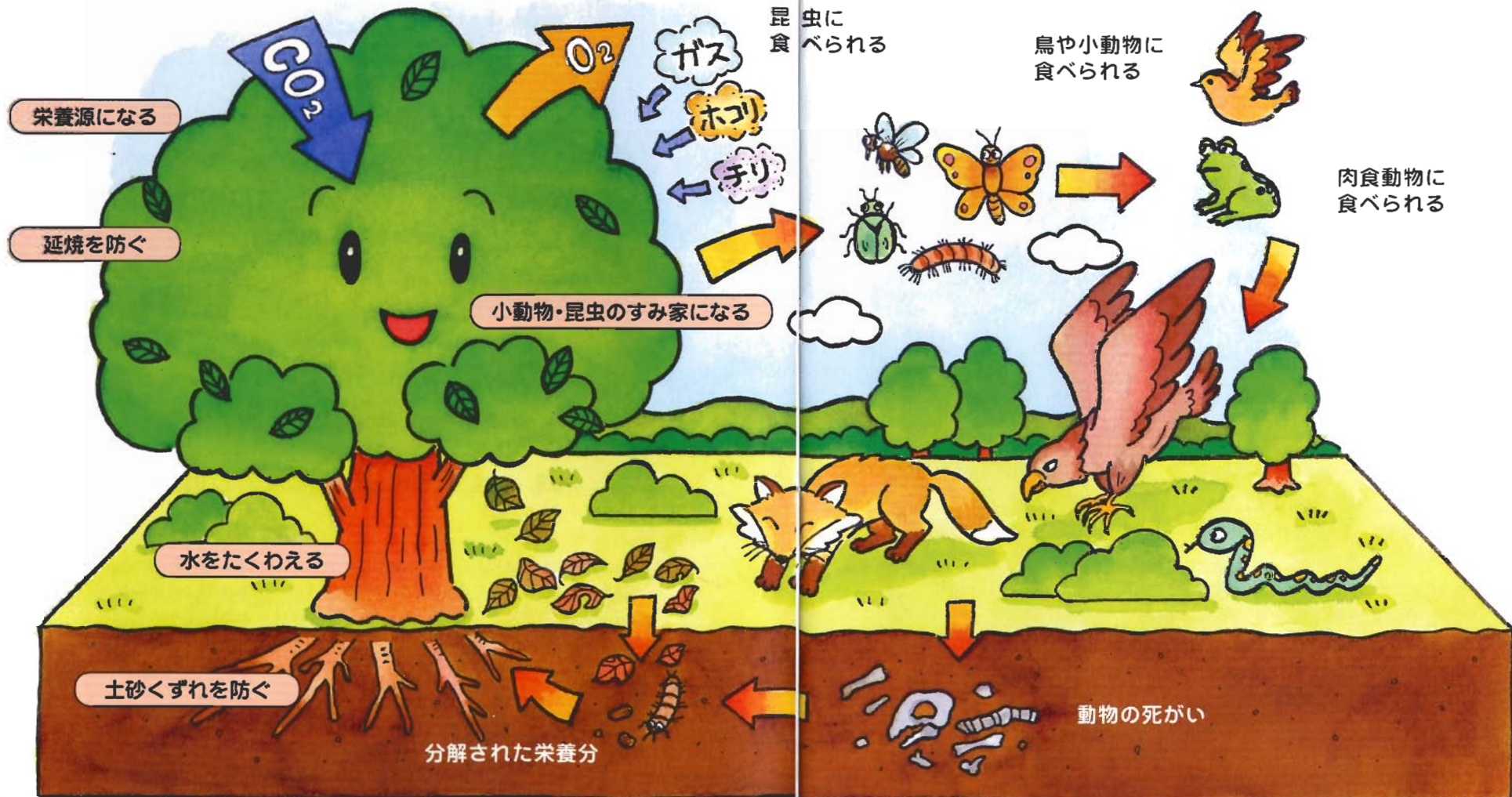
緑のはたらきと自然のしくみ

騒音をやわらげる

酸素をつくる

空気をきれいにする

景観にうるおいを与える



公園や街路樹、道ばたの雑草、庭に植えられた樹木や生け垣などの緑、さらにマンションなどのベランダや窓辺を飾る鉢植えも立派な緑です。

ひとつの家庭で育てられる緑に限りがあったとしても、緑を育てる家庭がたくさん集まれば、点から線、線から面へと自然に緑豊かで美しい街となるでしょう。

私たちのまわりの緑を増やして、自然が育む四季折々の新鮮な香りと息吹を感じられるような緑あふれる街、うるおいのある街をつくり、育てていきたいものです。

新鮮でおいしい緑を育てよう

花や緑は私たちにうるおいとやすらぎを与えてくれます。

小さな植物を窓辺や食卓に一鉢置くだけでもインテリアとしての効果は大きく、毎日の生活も楽しくなります。

さらにその植物が食べられるものであれば、楽しみはさらに膨らんでいきます。こうしたことから、いろいろな植物、なかでも野菜やハーブなどを組み合わせて栽培し、緑や花の美しさと収穫の両方を楽しむことができるキッチンガーデンが静かな人気を得ています。



キッチンガーデンは本来、庭の一角に設ける菜園を意味し、欧米では広い庭を利用してキッチンガーデンをつくるのが一般化しているようです。しかし、ガーデニングは広い庭を持つ人だけが楽しむためのものではありませんし、広い庭の菜園だけがキッチンガーデンと呼ばれるわけではありません。特に日本では住宅事情などから、戸外で手軽に栽培することが必ずしも一般化しているとはいえません。

ガーデニングは小さなコンテナ(容器)と植え込む植物さえあれば、ベランダや玄関先、室内でも楽しむことができますし、キッチンガーデンも同じです。

キッチンガーデンに使用する植物は、栽培条件ひとつとっても、日当たりが必要であったり、それほど日当たりがなくても育ったりと多種多様です。ですから、栽培条件さえ合えばマンションのベランダ、リビングの出窓や台所のテーブルなど、さまざまな生活空間を利用して、安全で新鮮、そして栄養価の高い「緑」づくりを楽しむことができます。

これらのことから、この冊子ではベランダや窓辺で育てることを中心としたキッチンガーデンについて説明いたします。



🌿 キッチンガーデンのテーマは？

キッチンガーデンは、スペースの広さやコンテナだけでなく、栽培する植物の種類や植え込みの量、家族構成、暮らしや食事の好みなどが反映されます。

しかし、ただ単に好みの植物をどんどん集めて植えても、込みすぎたり見栄えが悪くなったりと、まとまりをなくしてしまいます。

まとまりのあるものにするには、①インテリアも兼ねたものにする、②香草野菜を寄せ植えする、③サラダガーデンにする、④各種料理に使うなどというように、キッチンガーデンのテーマをしっかりと決めることが大切です。



🌱 畑(コンテナ)はどこ(何)にする？

コンテナ栽培の利点は、畝作りや土寄せの手間が必要なく用土の調整が容易であること、身近で観察しやすいこと、そして移動が可能であることです。

しかし、ひとつのコンテナがどんな植物の栽培にも合うということはありません。栽培する植物によって、コンテナの大きさや深さも変わります。

一般的にコンテナは大きいほうが野菜の収量も多くなりますが、鉢であればプラスチック鉢や駄温鉢、キク鉢、洋ラン用などのやや深鉢を用います。

樽やプランターは、野菜類であれば浅めのものでも十分育ちますが、深めのものの方が用途が広いのでおすすめです。

また、キッチン野菜の栽培容器は鉢やプランターと決まっているわけではありません。空き瓶や空き缶、食器や水切り籠のほか、ペットボトルなど、思いがけない容器が植物を植え込むコンテナになって、室内を引き立てたり、テーブルや窓辺の雰囲気を大きく変えてくれます。

発泡スチロールの箱やポリバケツなどもコンテナとして利用できますが、どんなものでも排水用の底穴は不可欠です。



🌱 トマトの栽培管理

わき芽は早めに除去し、主枝1本仕立てとします。収穫目標は5～6段とし、摘芯は最終花房の上2～3葉を残して行います。

ミニトマトの場合は、主枝と側枝を仕立てることもできます。追肥は葉色、新芽の生育などを見ながら与えます。



コンテナを選ぶ目安

大きさ

キュウリ、トマトなど株張りの大きいものは9号鉢、ナス、ピーマンは8号鉢程度のもの、マメ類は6号鉢で3本仕立てがよく、ツル性のものは9号鉢程度が適当です。

プランターに植える場合、果菜類は大型(74cm×24cm×17cm程度)、洋菜は小型(60cm×17cm×14cm程度)のものでもよいでしょう。



深さ

- 10~15cm ホウレンソウ、コマツナ、葉ネギ、ラディッシュ、ミツバ、パセリ、シュンギク、リーフレタスなど
- 20~25cm ミニニンジン、コカブ、ニラ、イチゴ、エンドウ、インゲンなど
- 30cm以上 トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、ブロッコリー、細根ダイコンなど



主な野菜の生育適温

定温性の野菜(生育適温15~20℃)	
寒さに強い	やや寒さに弱い
エンドウ、ネギ、ホウレンソウ、コマツナ、イチゴ、タイナ、カブなど	ニンジン、レタス、パセリ、シュンギク、ブロッコリー、ジャガイモなど

高温性の野菜(生育適温23~27℃)	
暑さに弱い	暑さに強い
インゲン、キュウリ、トマトなど	ナス、ピーマン、トウガラシ、シソなど



ナスの栽培管理



整枝は主枝と側枝2本の3本仕立てとします。側枝は1番果の真下の2本を残し、他の下枝は除去します。収穫が遅れると勢いが弱まるので、早めに行います。肥料が不足すると葉色は薄くなり、花も貧弱で着果も悪くなるので、不足しないうちに追肥します。ピーマンもほぼ同じ管理でよいでしょう。

🌱 コンテナでの栽培管理

コンテナの置き場所

鉢やプランターなどのコンテナは手軽に移動できるので、日の当たる所や風通しの良い所など、植物の生育にとってできるだけ環境の良い場所に移しましょう。

植物は一般に日当たりの良い場所を好みますが、弱い光や半日陰でも育つ植物もありますし、生育適温もそれぞれ違うので、特性をよく知るようにします。

■ 野菜と日当たり

強い日当たりが必要なもの	トマト、ナス、ピーマン、インゲン、マメ類、ニンジン、カリフラワー、ダイコンなど
半日陰でも育つもの	レタス、パセリ、シソ、ホウレンソウ、コマツナ、ナガネギ、シュンギク、イチゴ、セルリー、ニラ、ネギ、カブなど
弱い光を好むもの	ミツバ、カイワレダイコン、モヤシ、芽ネギ、芽シソ、軟白野菜、フキなど

肥料

元肥は、種まき、または苗の植え付け1週間くらい前に施します。施肥量は緩効性の化成肥料を用土1リットルに2g、普通化成肥料では1g施し、よく混ぜます。

追肥は植物の生育状況を見ながら与えます。

コンテナは限られた容量の土で植物を育てることから、乾きすぎや肥料切れが起きやすいため特に注意します。

肥料は一度に多くやりすぎると植物をいためるので、薄い液肥が徐々に効く緩効性の置肥などを使うようにしましょう。



水やり

水やりは植物にとって欠かすことができません。植物の体内には70～90%の水分が含まれているので、水が足りなくなると急に元気がなくなり萎れてしまいますし、逆に水をやり過ぎると鉢内がいつも水浸しの状態で呼吸に必要な空気の相が極端に少なくなるため、やがて根腐れを起こして枯れてしまいます。

植物が違えば水やりの仕方も異なりますし、葉の面積や種類、温度、湿度、日当たりの程度、そしてコンテナの材質や形状、大きさなどの違いにも左右されます。ですから、寄せ植えの水やりは特に注意が必要です。

また、コンテナ栽培は露地と比べて土が乾きやすくなるので、こまめに様子を見て土の表面が乾いてきたら底から水が出るくらい、たっぷりと水やりをするのが基本です。



病虫害

まず薬剤を使わないように努めます。そのためには、①コンテナの用土を清潔に保ち、枯葉などを処分する。②密植を避けて、日当たりと風通しをよくする。③丈夫な植物、品種を植える。④病気の被害部分や害虫は早めにとって処分する。⑤肥料のやりすぎ、特にチッソ分の過多は被害が大きくなるので注意する。⑥土中病菌の跳ね上がりを防ぐため、マルチングをする。⑦木酢液を定期的に散布するなどして、予防を第一に心がけましょう。

また、暑い日が続く鉢内も乾きやすい夏場は、毎朝早い時間帯の水やりを心がけます。夏場、晴天の正午過ぎの水やりは、葉焼けなどを起こす原因となることが多いので避けましょう。



■組み合わせの工夫

寄せ植えの場合、限られたスペースを効果的に使うには、コンテナとの相性だけでなく、植物同士の相性（組み合わせ）が大切です。葉の色と草姿、高さやボリュームなどのバランスを考えて、品種を選んだり、組み合わせてみましょう。

また、植物の組み合わせによっては、香りや根から分泌される物質で、組み合わせた植物の病虫害を予防したり、勢いをよくしたり、回復させたりします。例えば、バジルとトマト、カリフラワーとセルリーなどで、こうした関係にあるものを「共栄植物」（コンパニオンプランツ）といいます。



<まだまだある!寄せ植え・混植の効果>

- ・ネギ類を混植するとダニの予防になる。
- ・トウガラシを混植するとモンシロチョウが寄りつかないので、アオムシの予防とハダニにも効果がある。
- ・ミニトマトを混植するとタネバエやコガネムシの予防になる。 etc



収穫

トマトやピーマン、ナスなどは、ほどよく熟したものを収穫します。ネギ類やミツバは再生力が強いので必要量だけ刈り取ります。シソやシュンギクなどは側枝が出やすいので芽先を摘むと長期間収穫できます。リーフレタスやホウレンソウなどは株ごととらず、下の葉から順に摘み取り、新しい葉を再生させて長期間利用するようにします。



■主な野菜類の播種・定植・収穫期

（ベランダなどでの戸外栽培を基準にしています）

野菜	播種期	苗の定植期	収穫期
トマト	4月上旬	6月上旬	8月上～9月中旬
ナス	4月上旬	6月上旬	7月下～9月下旬
ピーマン トウガラシ	3月下～4月上旬	6月上～中旬	7月中～9月中旬
キュウリ	4月下～5月上旬	6月上～中旬	7月下～9月中旬
ニンジン	春まき 4月上～下旬 晩春まき 5月上～下旬		7月下～8月中旬 9月上～中旬
タイナ	4月中～5月上旬		6月中～7月上旬
ミツバ	5月		8月上～10月上旬
パセリ	4月上～5月下旬		7月上～10月下旬
レタス	4月下～6月下旬		7月中～8月下旬
ホウレンソウ	春作 4月上～5月下旬 夏作 6月下～7月上旬		

トマト、ナス、ピーマン、キュウリなどの苗は、急いで植えてはいけません。地温を目安とすると、トマトで15℃、キュウリで18～20℃になってから植え付けます。また、地温を上げるためにビニールでマルチングを行ったり、防風ネットで覆うと、植え付け後の活着が早まり、生育も早まります。

<播種>

- ①鉢底にゴロ土を入れ、次に用土を入れます。
- ②種まきする作物はホウレンソウなど葉菜類、マメ類などで、葉菜類は条まきか散ばんし、マメ類は点ばんします。
- ③一般に、種子の大きさの2～3倍程度の覆土をします。ただし、好光性の種子（レタス、パセリ、ミツバ、シュンギク、シソなど）は種子が隠れる程度の覆土をします。

<良い野菜苗の選び方・植え方>

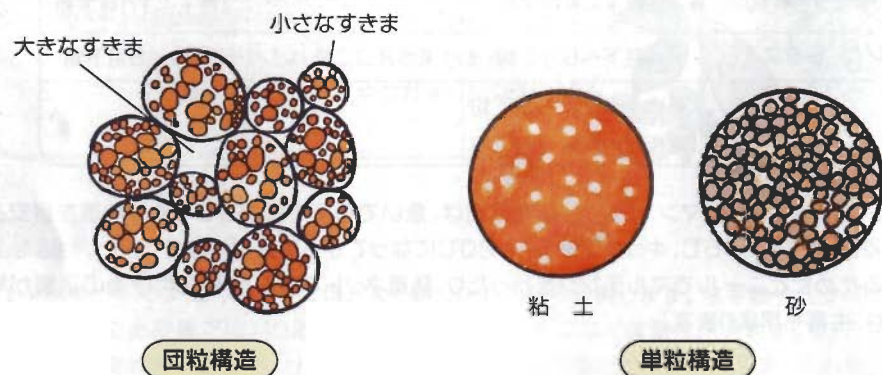
- ①双葉のしっかりしたもの
- ②徒長してないもの
- ③茎の太いもの

※植え付けの朝、十分に灌水し、根鉢を壊さないで深植えをさせて植えます。

たいせつな土の役割

土は長い間の物理的・化学的な変化のほか、生物的变化によってできたものです。わずかな土にも数えきれないほどのバクテリアや原生動物、菌類などの微生物のほか、ミミズ、昆虫、土中生物も数多く生活しています。これらの生物が互いに食いつ食われつしながら、つくるものと壊すもの、共同して生活の環をつくるものなど、目に見えない土の中で激しい生き物のドラマが展開されています。また、これにより土が生成され、性質に変化を与えています。

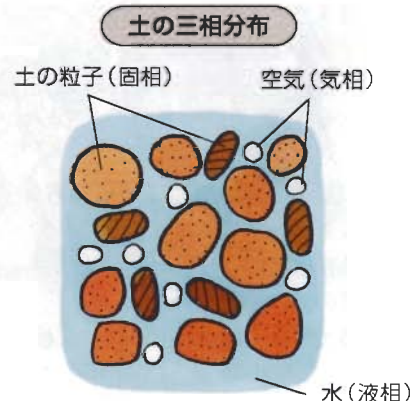
一般に良い土とは根が深く伸びて、排水性、保水性、通気性が優れた「団粒構造」の土であるとされています。団粒性のある土は、いろいろな土壌粒子が集まって中間の粒子をつくり、さらに、その中間粒子が集まり「団粒構造」を構成しています。土壌粒子の間には空気と水分、水分に溶けた肥料分で満たされています。この土壌粒子をつなげる働きをしているのが、腐葉土や堆肥などに多く含まれる腐植という物質で、有機物が微生物によって分解する過程でできます。



土の組成と三相分布

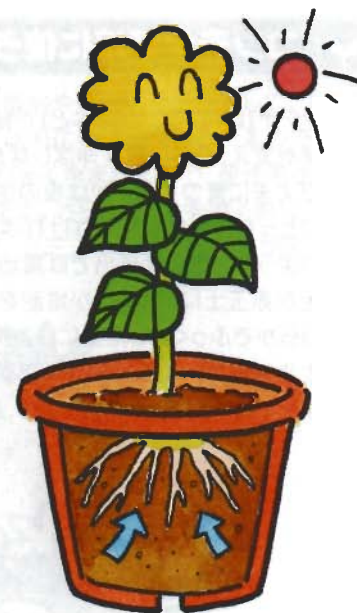
土壌粒子(有機物、無機物): 固相
40~50%が理想

土壌粒子の隙間 { 水: 液相
25~30%が理想
空気: 気相
25~30%が理想



土の中でも呼吸する...

植物は太陽エネルギー、炭酸ガス、植物の葉緑素、そして根から吸収した水分により光合成作用を行い、炭水化物を生成しています。一方、根は土中の酸素により活発に呼吸作用をして生長しています。また、土中微生物も呼吸作用を行っているため、土の中は地上と違って、新鮮な空気の出入りが少なくなりがちです。これを人間生活に例えると、密閉された換気の悪い室内で火鉢を囲んで、たくさんの人が生活しているような状態です。このような通気性のよくない状態が続くと、植物は呼吸ができなくなり、根が生長できず、養分や水分の吸収も低下し、植物自体の生長にも大きな影響を及ぼすことになってしまいます。



よい土はこんなカンジ...

植物を上手に栽培するためには、しっかり根を張らせることができ、生長に十分な水分と養分を保持することができる土が不可欠です。

では、そんな土というのは...

土を手で握って開くと

状態	診断と対策
 軟らかくゆっくり碎ける	多くはよい土
ねっちり固まる	堆肥、ピートモス、落ち葉、火山礫、稲ワラなどを混ぜて、通気性をよくする
サラサラ碎けて落ちる	堆肥、ピートモス、落ち葉などを混ぜて有機質を富ませ水もちをよくする

コンテナ栽培に使う土

コンテナ(鉢、プランターなど)で育てる植物は、露地と違って限られた土の中で根を張って地上部を支え、さらに根を伸ばしながら生育に必要な水分や養分を吸収しています。植物が元気で丈夫に育つかどうかは根の生長と働きによることが大きく、人間生活に例えると用土は根にとって快適な住居でなければなりません。

このようにコンテナ栽培では露地栽培以上に良質な土が要求されますが、一般に、市販の培養土か赤玉土に、腐葉土か堆肥を30%程度入れてよくかき混ぜ、排水性と保水性を高めてやわらかでふっくらした土にします。

畑土や庭土を利用する場合も腐葉土や堆肥を30~40%を混合します。

腐葉土や堆肥は土壌改良のほか、肥料成分も含み肥料を保持する効果もあります。



有機物をふやそう

土の中には、植物や微生物の遺体など有機物が自然に供給されています。しかし、その量は限度があり、植物のほか微生物自体が栄養源として消費するので、堆肥や腐葉土などの有機物を土壌に施して、土の力の維持・増進をはかりましょう。

堆肥などの有機物を施すと、土中の微生物が分解し、分解する過程でできた腐植は、土粒同士を結びつけて土を団粒化させます。

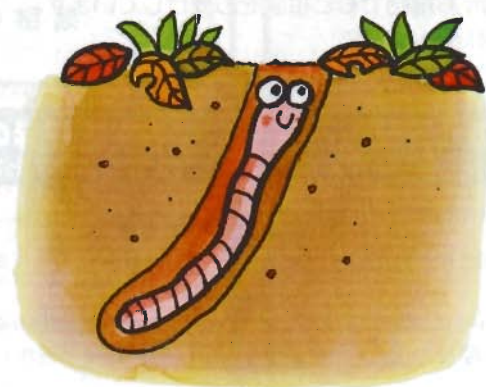
また、有機物は土壌微生物の働きを活性化させ、分解された窒素やリン酸などが植物に有効に働きます。そして吸収されずに余った養分は、土粒に吸収され一時的に貯蔵されます。

さらに腐植の多い土は、肥料をやりすぎてもこれをやわらげたり、有機物から出る腐食酸や有機酸を緩和し、土の物理性や化学性のよい状態を維持します。



ミミズをふやそう

ミミズは土を食べます。ミミズは土に含まれている有機物や微生物を栄養として、消化管を通じて改良された土を排出します。排出された土粒子は消化物で糊付けされるので、きれいな団粒となります。また、その団粒土にはカルシウムが多く含まれるので、酸性を改良し、微生物も住みやすくなり、土に活力を与えることができます。さらに、土中を潜る際に穴を開けるので通気性・排水性をよくしてくれます。したがって、ミミズの棲む土は植物がよく育つ肥沃な土といわれています。



堆肥をつくろう

堆肥は購入するだけでなく、身近な材料で作ってみましょう。

堆肥作りの原理である堆積した材料が腐るのは、カビ、バクテリアなどの微生物の働きによるものです。よい堆肥づくりは微生物が活発に増殖できるよう、水分と通気を適切な状態に保つことにあります。

- ① 糞、落ち葉、刈り草、台所の生ゴミなどを素材として、穴を掘って15~20cmの厚さに積み十分に水をかけ、よく踏みつけます。鶏糞や米糠があれば薄くまきます。これを積み重ね、積み終えたら土を少しかけてふたをするかビニールで覆います。
- ② 台所の生ゴミ(野菜くずや魚の食べ残しなど)の水分を切って、そのつどコンポスターに詰めていくだけです。ただし、塩分や油分の強い生ゴミはコンポスターには不向きです。



緑の相談

「咲き終わった花の手入れはどうしたらいいの?」「肥料はいつ何をやればいいのか?」
といったご相談はありませんか。こうした園芸に関するさまざまなご相談に、専門知識
を持つ経験豊かな「緑の相談員」がいてねいにお答えします。

直接お越しになるか、お電話でもご相談をお受けしています。

豊平公園緑のセンター

豊平区豊平5条13丁目

- 開館時間
午前8時45分から午後5時15分まで
- 休館日
毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
12月29日から翌年1月3日まで

緑の相談

- 相談日・時間
休館日を除く毎日
午前10時から午後4時まで
(正午から午後1時まで休み)
- ☎(011)811-9370

みどりの図書
午前8時45分から午後5時15分まで

百合が原緑のセンター

北区百合が原公園210番地

- 開館時間
午前8時45分から午後5時15分まで
- 休館日
毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
12月29日から翌年1月3日まで

緑の相談

- 相談日・時間
毎週水、木、土、日曜日
午前10時から午後4時まで
(正午から午後1時まで休み)
- ☎(011)772-3511

みどりの図書
午前8時45分から午後5時15分まで

- 温室観覧料
大人(高校生以上) 130円
中学生以下・65歳以上 無 料
(敬老手帳などをご提示ください)

平岡樹芸センター

清田区平岡4条3丁目1-1

- 開園時間
午前8時45分から午後5時15分まで
- 休園日
毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
11月4日から翌年4月28日まで

緑の相談

- 相談日・時間
開園期間中の毎週水、木、土、日曜日
午前10時から午後4時まで
(正午から午後1時まで休み)
- ☎(011)883-2891

みどりの図書
午前8時45分から午後5時15分まで

麻生緑の相談室

北区北39条西5丁目(麻生総合センター内)

緑の相談

- 相談日・時間
12月29日から翌年1月3日を除く
毎週火、水、金、土曜日(これらの曜日が祝日の場合は、木曜日が代替相談日)
午前10時から午後4時まで
(正午から午後1時まで休み)

☎(011)757-1003

みどりの図書
午前10時00分から午後4時00分まで





札幌市グリーンデータバンク

グリーンデータバンクは、引っ越しや増改築などのため、家庭で育てることができなくなったり、不要になった樹木などの植物を登録していただき、受け取りを希望する方にこの植物を紹介する制度です。

もしも、身近にこんな植物があったら……。ぜひ、この制度をご利用ください。かけがえのない大切な緑と花を有効に活用し、緑の街づくりに役立てましょう。

植物を提供される方は...

・提供の対象となる植物の条件

- ① 庭木または庭植えの草花類(球根、宿根草)で、鉢物や一年草は対象外です。
 - ② 植物の提供は無償です。
 - ③ 庭木の場合、庭木として十分利用可能なもの。
 - ④ 移植が容易にできるもの。
- ・所定の「提供申込書」に記入の上、豊平公園緑のセンターへお申し込みください(郵送可)。
- ・植物の名前は正確にご記入ください。名称が不明確な場合は写真やサンプルなどを添えて申し込み時によく説明してください。
- ・植物には移植適期などがありますので、斡旋期間に十分余裕を持たせてください。



受け取り希望の方は...

■提供植物のリストが豊平公園緑のセンター、百合が原緑のセンター、平岡樹芸センターに掲示してありますので、所定の「受取希望申込書」に記入して、豊平公園緑のセンターへ直接お越しの上、お申し込みください。

- ・同一植物に対する希望が多い場合は、申し込み先着順となります。
- ・移植に伴う労力や費用などは受け取られる方の負担となります。
- ・植物の受け取り後は結果報告をお願いします。



グリーンデータバンクに対するお問い合わせ・お申し込みは

豊平公園緑のセンター TEL 811-6568

受付:同センター開館日(22ページ参照)の午前9時から午後4時まで

▶ 札幌市都市緑化基金 ◀

緑あふれる街づくりのため
札幌市都市緑化基金の募金に
ご協力をお願いします



都市の緑は、私たちの生活に四季折々の季節感や心のゆとり、やすらぎ、うるおいなど、かけがえない充足感を与えてくれます。

札幌市は、道路、公園などの公共施設の緑化をはじめ、市民の方々の協力を得ながら地域の緑化に努めて、現在、全国でも屈指の緑豊かな街になりつつあります。

しかし、街全体が緑と花と木陰に包まれた「ゆとりとうるおいのある街」を実現するためには、公園などの公共施設の緑だけではなく、個人の住宅や事業所の周辺など民有地の緑化が不可欠です。

札幌市都市緑化基金は、市民の皆様から寄附をいただいたお金を積み立て、その果実(利子)で民有地の緑化を進めていこうとするものです。

私たちの街札幌をより緑豊かな魅力ある街にするため、「札幌市都市緑化基金」の積み立てに、市民の皆様の暖かいご協力を賜りますようお願い申し上げます。

都市緑化基金はこのような事業を実施しています

記念樹プレゼント

市民を対象に、結婚、出産、新築などの人生の節目を記念する慶事に対して、ライラック、ツツジ、ウメなど10種類ほどのの中から希望の苗木をプレゼントしています。

応募は往復はがきで。返信用はがきが引換券となります。

「広報さっぽろ」などでお知らせします。



ツタの補助

対象：市内の住宅、事業所等の壁面、法面など。

補助数：植え込み予定の50%(最大15本まで)

申し込み：春秋の年2回。「広報さっぽろ」でお知らせします。



ツタ緑化モデル施設

(ツタによる緑化推進の模範となるような市内の家庭、事業所を平成5年10月にモデル指定しました)



小西信義邸／中央区宮の森3条11丁目



穀物寮／豊平区中の島1条9丁目



中野診療所／東区北13条東16丁目



株式会社濱野建材店／中央区北3条東5丁目



ヴァンローゼ／中央区北3条西2丁目



札幌競馬場／中央区北20条西15丁目



六花亭製菓利真駒内店／南区真駒内上町3丁目

🌱 フラワーポットの貸し出し

対象：市内の町内会、自治会、商店街などの民間団体
 個数：1団体あたり30個以上100個まで
 規格：70cm×24cm×20cm
 期間：3年間継続
 申し込み：年1回春のみ
 「広報さっぽろ」などでお知らせします。
 その他：貸し出しの初年度のみ、培養土と花苗を
 1ポットあたり5株提供します。



その他の事業



コンテナツリーの設置



フラワースタンドの設置



緑化の講習会



緑化手引き書の発行



緑の絵コンクール



緑と花のフォトコンテスト



緑化パネルの展示

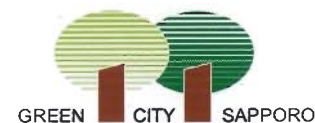


緑化イベントへの協力

都市緑化基金の募金にご協力を



この冊子も基金の果実で作成しています。



基金に関するお問い合わせは

札幌市環境局緑化推進部緑の保全課
 〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館6階
 電話 011-211-2532

財団法人札幌市公園緑化協会
 〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目 南1条タカハビル2階
 電話 011-211-2579